

# 二代目市川團十郎の日記にみる

ビュールクートーヴェ Björk, Tove

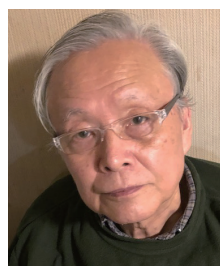
埼玉大学人文社会科学部研究科・准教授

## 江戸の歌舞伎劇場という一大商業圏は、なぜ成立したのか。

人々は身分を超えて劇場に訪れ  
文化は共有され、  
演技・演出は商品化される――

▼役者と観客が文学、信仰、風俗を共有し、茶屋や商人を巻き込む要となつた江戸歌舞伎劇場。▼歌舞伎の転換期といわれる享保期、二代目市川團十郎はそこでなにを演じ、どのように劇場を切り盛りしたのか？▼膨大な資料を駆使して江戸歌舞伎の実態を解明し、欧米演劇研究の文脈で歌舞伎をとらえる端緒となる画期的な書。

武井協三「国文学研究資料館名誉教授」▼推薦▲



十八世紀歌舞伎の、  
演技や興行の実態に肉迫する

ロバートキャンベル「国文学研究資料館館長」



時代の空気と動きと  
芝居の面白さを  
読者の眼前に運び込んでくれる



# 享保期江戸歌舞伎

エンターテインメントの原点を見つめ直す書――！

ISBN978-4-909658-09-8 C0095  
A5判・上製・カバー装  
272頁・カラー口絵

定価：本体6,000円（税別）

★日本文学研究関連の情報を毎日更新中！→ <http://bungaku-report.com>

〒115-0045 東京都北区赤羽1-19-7-508 電話03-5939-9027 FAX03-5939-9094 info@bungaku-report.com



図書出版  
文学通信

# もくじ／体裁

## カラー口絵

## はじめに

## 第一部 享保期の江戸歌舞伎—二代目團十郎と演出の種々相

- 第1章 二代目團十郎の読書体験と演技・演出
- 第2章 江戸の開帳興行—不動明王の演技・演出を中心に
- 第3章 宣伝の演出と印刷物の制作—もぐさ売りを中心に
- 第4章 「助六」と喫煙の演出

## 第二部 享保期江戸歌舞伎の興行

- 第5章 享保期江戸歌舞伎の劇場経営
- 第6章 森田座の休座と控櫓による河原崎座の旗揚げ
- 第7章 享保期の芝居茶屋
- 第8章 江戸歌舞伎の観客

## おわりに

あとがき  
初出一覧  
索引  
(人名・役名／  
書名・作品名・事項)

ISBN978-4-909658-09-8  
C0095  
A5判・上製・カバー装  
272頁・カラー口絵  
定価:本体6,000円(税別)



## 著者プロフィール

## ビュールク トーヴェ・ヨハンナ

(BJÖRK, Tove Johanna)

1974 年フィンランド生まれ。2000 年、アーボ・アカデミー大学（フィンランド・トルク）大学院博士前期課程修了、修士（国際法）。2002 年、フンボルト大学（ドイツ・ベルリン）で日本文学研究を開始、2014 年、立教大学日本文学博士課程後期課程修了、博士（文学）。2014 年 10 月より埼玉大学人文社会科学部研究科・准教授（現職）。

## ご注文方法

- 全国の書店でお買い求め頂けます。
- お近くに書店が無い場合、小社に直接ご連絡いただいても構いません。  
電話=03-5939-9027 Fax=03-5939-9094 メール= info@bungaku-report.com  
お葉書= 〒115-0045 東京都北区赤羽1-19-7-508 文学通信営業部

## ご注文・お問い合わせ

**Fax 03-5939-9094** 〒115-0045 東京都北区赤羽1-19-7-508 文学通信営業部  
電話=03-5939-9027 Fax=03-5939-9094 メール=info@bungaku-report.com

|                             |                                                                                                      |  |   |     |        |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---|-----|--------|
| 申込書                         | ビュールク トーヴェ BJÖRK, Tove<br>二代目市川團十郎の日記にみる<br><b>享保期江戸歌舞伎</b><br>定価:本体6,000円(税別) ISBN978-4-909658-09-8 |  | 冊 | 書店名 |        |
|                             | ご注文所<br>〒                                                                                            |  |   |     | お電話( ) |
|                             | お名前                                                                                                  |  |   |     |        |
| 毎度ありがとうございます。ご注文をお待ちしております。 |                                                                                                      |  |   |     |        |

※お客様の住所・氏名などの個人情報は、お申し込みの書籍を小社から書店様にお届けするために、笠間書院・販売会社・書店で利用させていただきます。その他の目的では利用いたしません。ご了承のうえ、お書き下さい。

# 推薦文

ビュールク・トーヴェさんの著書『二代目市川團十郎の日記にみる享保期江戸歌舞伎』は、画期的な本である。本書は、歌舞伎を世界の演劇の中に置いて考える。日本の芸能を、世界的視野で考察する端緒が、本書によってもたらされているのである。

そういった大きな視点もさることながら、トーヴェさんの研究は「煙草」「茶屋」「観客」といった、従来の研究では見逃されがちであった側面に着目し、当時の歌舞伎の細部にまで綿密な検討を加えている。『二代目團十郎日記』や劇場内図など、江戸時代の文献や絵画の資料に直接あたり、享保期を中心とする 18 世紀歌舞伎の、演技や興行の実態に肉迫する。その方法は堅実にして大胆。本書は歌舞伎研究に新たな視野を切り拓くものとなった。

——武井協三 [国文学研究資料館名誉教授]

一人の俳優が書き残した何種類もの日記を繋ぎ合わせ、精読する。シンプルに見えて、実に精妙な読解を必要とする。手ほどきの師匠との四〇年ぶりの再会から書き起こす著者は、二代目團十郎が読書を通して演技や舞台演出をどう花開かせたかを冒頭で述べ、その上で信仰の軌跡、不動明王の演技と演出、同時代の芸能と寺社との関わり等へと半径を着実に広げていく。

日記を中心に据えながら、当時から後世の記録を引き合わせ、劇場運営と「個」としての嗜好みとの間を何度も往還し、時代の空気と動きと芝居の面白さを読者の眼前に運び込んでくれる。一冊に外連味の<sup>たしな</sup>ない、清々しい佇まいがある。

——ロバート キャンベル [国文学研究資料館長]